

昭和二年八月二日

信成会社小穴製作所

初稿三

小穴製作所の見えすいた偽満に乗るな

賢明なる小穴の経営員諸君、昨今の会社は其甚かに艱が変になつたのか経営員に對して骨格を圧迫を加へて来た

見よ、朝日代表した偽満的か、聲明をいくら学問のたりな、俺達でも大なる見えすいた偽満には乗らないなのだ

曰く人員の整理など、い、加減にしろ、現在首切を出して居るではないか、曰く職工を増員すると馬鹿さへ唯一人入社したものがあるか、

首切がある事、金をこまかしてある一派の悪宣傳であると言つて居るが、何がある一派の宣傳だ、現在首切を出して居るではないか、白ばくしろ

もよい加減にしろ、こんな會社の逆宣傳には俺達はこまかさないなのだ、全従業員諸君、今こそみなが一つに固まる時が来た、諸君等がしつかり

固まつてゐてこそ首切の反對運動も起る、賃衆の値上要求も出来る、今こそ目覚める時だ、会社が正しいか、俺達が真に正しいか、自分の胸

に聞いて見よ、一人の誠首は引いては自分にも来るぞ、其の時になつて、わい、は遅い、今から一つにみくんな固まら、會社のこまかしをあばいてしまへ一人の首切にも反對せよ